

田原先生を訪ねて

中 沢 信 午*

S. NAKAZAWA: Visiting Prof. M. TAHARA

秋といつても湘南地方にはまだ暑い日がある。10月4日の午後、汗びつしよりになつて私は神奈川県二の宮に田原先生を訪ねた。松の木立ちにかこまれた丘の上に先生の家はある。

田原正人先生は明治17年7月13日の生まれ、一高から東大の植物学科を卒業し、東北大生物学教室で永年にわたる研究のかたわら多くの子弟を教育し、昭和20年に退官、のち横浜市大に奉職されたが、その後二の宮に引退して自適の生活をつづけておられる。

仙台では戦災でいのちからがら台の原に退避してお宅は丸焼けとなつた。それから宮城県南郷村に疎開。いよいよ退官して仙台を去られるときには、戦後の事情で十分な送別もできず、今思うと実になさけないことだつた。その先生を訪ねたのである。

“よくきたね。さあお入りなさい”。

玄関のおくに相変らずのやさしい声がきこえた。田原先生だ。

先生の研究は主として三つの分野にわかれる。第一はキク属の染色体数が基本数9の倍数からなるという研究で、オランダのTÄCKHOLMによるバラ属のそれとならんで世界における polyploidy の発見として有名である。第二は裸子植物を中心とする胚発生の研究、そして第三が藻類、とくにホンダワラおよび近縁種の形態学、細胞学、また発生学的研究である。

研究の分野に応じて子弟たちもやはり三方面にわたっている。被子植物の染色体や胚発生などを専攻して先生の門下を出た人々は小野知夫、飯沼政治郎、岡部作一、及川フミ、及川公平、裸子植物の胚発生をやつたのは秋本



Prof. Dr. M. TAHARA
at home. (Oct. 4th,
1959)

* 山形大学文理学部
Biology Department, Yamagata University

直行, 阿部徳郎, 栗原春信, 須田邦男, 杉原美德, 八戸正夫, 生沼巴 (故人)。海藻の発生をやつたのは猪野俊平, 阿部広五郎 (故人), および中沢信午, その他の分野で指導をうけたのが高松正彦, 堀川芳雄, 市原謙太郎, および仙波治の諸氏であつた。なお高松氏ははじめ材の解剖で田原先生の門を出で, のち海藻に転化した。また下斗米直昌氏は学生としてではなく, 田原先生の助手としてやはりキク科植物の細胞学について影響をうけた。筆者は田原先生の最後の子弟として海藻の発生を教えられた。

先生がとくにホンダワラの研究に熱中されたことと先生の田原という名前とは不思議な因縁であらうか。またキク科の研究をやられたのも菊子夫人と関係がありそうである。もつとも先生御自身は“さあ, どういうわけでキクの研究をはじめたんだつたか, 忘れたネ”といつておられた。

その菊子夫人がこんど亡くなられた。つい最近, 9月27日の未明だつた。伊勢湾台風が名古屋地方をおそつて死者数千人におよんだその真夜中にかねてより脳出血で療養中だつた夫人は, 電灯もつかず医者をもよぶにも困難な真つ暗闇のなかで亡くなつていつた。

“人生の末路にふさわしい大嵐の晩だつた”と先生は当時の思い出を語られた。

先生は元気である。これからフランス文学を勉強してみたい, と理想にもえて, 改めてフランス語の学習に熱中しておられたにはさすがに私もおどろいた。75歳である。

(1959. 10. 10)

Summary

Recently, the writer had a chance to call on Prof. Dr. MASATO TAHARA at his residence in Ninomiya, Kanagawa Prefecture. He is a pioneer in the study of furoid embryology, as well as world-famous for his discovery of polyploidy in *Chrysanthemum* (1921). We should like to express our cordial sympathy for his grief recently bereaved of his darling better-half. Happy to say, Professor himself is healthy and looks vivid enjoying music, photograph, and literatures.